

人権 まんが 未来ちゃん

第41回 原爆の子の像

作画 南一平



人権まんが 解説

佐々木禎子さんは、広島に投下された原爆で被爆し、12歳で急性白血病と診断されました。

禎子さんは、折り鶴を千羽折って病気を治したいという思いから葉の包み紙などで折り鶴を折り続けていましたが、この願いは届かず、8ヵ月の闘病生活の後、亡くなられたのはまんのとおりです。

その後、禎子さんが折っていた折り鶴は、「原爆の子の像」建立の運動を通じて、核兵器廃絶、平和への願いの象徴となりました。

今年、日本は原爆被爆70年を、そして終戦70年を迎えます。

当時の体験者の高齢化が進み、その継承が難しくなっていますが、引き続き私たちは、平和を願う心を次世代に伝える必要があるのではないのでしょうか。